

最優秀賞
大分県教育委員会教育長賞

スマート農業村

～ハイブリットライフな住まい～

設計趣旨



大分工業
神田 悠希



大分工業
宮下 琴衣

我が家はいつも祖父母からお米をもらっていたが、後継者問題などからお米を作らなくなり、「令和の米騒動」とともに、我が家も米不足の状況となった。祖父母の近辺の田んぼも、担い手問題や維持管理不足により、休耕地が目立っている。

以前テレビで紹介されていた「石山アンジュ」氏の、多拠点生活を実践し、サステナブルな生き方をする、について興味を持ったことを思い出す。同氏は2018年から大分と東京での2拠点生活を始め、「田舎暮らしとリモートワークの両立」というハイブリッドライフを実践していた。

私たちは「このようなライフスタイルでも実践できる農業の在り方とは何か」を考え、いま話題になっている「スマート農業」を取り入れ、分業システマ的なこれからの

農業を考案した。日本が抱える農業問題を、将来に渡る解決に繋げ、新しい農村の在り方を提案できればと思う。「農地地盤改良、ハウスや農業施工、農業生産物の出荷・加工」など、分業制のあるスマー

ト農業の展開を図りたい。

今回設計した場所は、大分県竹田市入田地区。「過疎地域持続的発展計画」に基づいて対策を練った。しかし、専業農家は農家全体の16%で、8割を超える農家が他の収入を求める兼業農家となっている。

私たちは「スマート農業村」として、入田地区を再生し、分業制を取り入れた採算性のある農地計画を行い、石山氏のような2拠点居住者用の住宅を設計した。

